

令和5年度 島根県立横田高等学校 学校評価

<学校運営方針>
 奥出雲町唯一の高等学校として、生徒・保護者のニーズおよび地域の期待に応え、地域から信頼される魅力ある学校づくりを推進する。

| 重点目標 | 分掌・学年部の目標 | 目標達成のための具体策 | 評価指標（アンケート結果） 肯定的評価割合（%）（昨年度→今年度） | 評価元アンケート項目 | 自己評価及び改善策 | 学校運営協議会評価・意見 |
|---------------------------------|---|--|--|--|--|--|
| 人権教育の推進 | ○人権意識の高揚 ○自他を大切にす心の醸成 ○安全安心な環境づくり | ○人権学習LHR・講演会 ○日々の生徒への声かけ ○学年集会 ○情報モラル講演会 ○校内教職員研修 | 「人権の保障、安全・安心な学校・学級」 生徒（90→96） 保護者（98→91） 教職員（100→91） | 生徒：9 保護者：3 教職員：4 | ○人権学習LHR・講演会、情報モラル講演会、また、それに合わせた校内研修会等、計画的に実施できた。 ○LHRや講演会で学んだことが、生徒の日常においても、振り返られ、意識されるように、意図的に言葉かけや指導を行っていききたい。 | ○せっかくよい授業、取り組みをされているのでそれをもっと外部にアピールするべきである。報道にリリースしてもなかなか取り上げられないということであるが、学校内で担当を決め、頻繁にリリースすれば幾つか取り上げてもらえると思う。 |
| | ○いじめの未然防止・早期発見・解決 | ○生活アンケート ○いじめ防止対策委員会 | 「生徒への人権の配慮」 教職員（100→100） | 教職員：2 | | |
| | ○教育相談の充実 | ○スクールカウンセラーによるカウンセリング ○担任・学年主任・養護教諭等による教育・健康相談 | 「教育相談の充実」 生徒（93→92） 保護者（90→87） 教職員（100→95） | 生徒：10 保護者：8 教職員：5 | ○生徒・教職員と、保護者の数値に開きがあるので、担任だけでなく、気軽に相談できる相談の窓口等、積極的にPRを行っていききたい。 | |
| 思いやりの心の涵養 | ○規律ある態度の育成 | ○生活時間調査 ○日々の生徒への声掛け ○学年集会 | 「ふるまい、身だしなみ」 生徒（97→97） 保護者（93→96） | 生徒：3 保護者：2 | ○今年度は、生徒の主体性を育むことを狙いとして、服装検査を廃止したが、ほとんどの生徒が清潔感のある身だしなみで、挨拶等の振る舞い向上に努めている。 | ○せつかくよい授業、取り組みをされているのでそれをもっと外部にアピールするべきである。報道にリリースしてもなかなか取り上げられないということであるが、学校内で担当を決め、頻繁にリリースすれば幾つか取り上げてもらえると思う。 |
| キャリア教育の推進 | ○基本的な生活習慣の確立 ○学習習慣の確立 | ○生活時間調査 ○日々の生徒への声掛け ○担任面談 | 「計画的な日常生活習慣の育成」 教職員（89→91） 「基本的な生活習慣及び学習習慣確立」 生徒（71→80） 保護者（67→78） 『平日学習時間目標』 R5(4月) [9月] 60分以上 90%以上 (71%) [65%] 120分以上 50%以上 (22%) [45%] | 教職員：6 生徒：1 保護者：1 | ○生徒面談や生活時間調査などから判断すると、「家庭学習時間の確保」と「規則正しい生活」が必ずしも両立しているとは言いきれない。各授業で生徒に「新たな発見」ができる機会を持たせ、その結果として、家庭での自主的な学習活動が生まれることを望みたい。 ○今年度は医師を講師に招き、「メディア依存と睡眠」の関係について講演を行い、生活習慣の改善に一定の効果が見られた。今後も継続的に、生活習慣を見直す契機を提供していきたい。 | ○少子化対策が他校同様に本校の課題である。その対策としては小中高連携と外部へのPRが大切である。連携については管理職だけでなく現場の先生方の各教科等の細かい連携が必要である。 |
| | 学力の伸張 自己実現の支援 | ○学力向上・基礎基本の徹底 ○思考力・判断力・表現力の育成 | ○授業評価アンケート ○習熟度別指導 ○少人数指導 | 「授業への生徒の取り組み」 生徒（94→93） 「授業の充実度」 生徒（87→89） 保護者（90→82） 「教員の学力伸長力」 教職員（85→95） <生徒による授業評価R5.7実施> 「生徒自身の学習への主体的な取り組み」 （93→96） 「教員の授業の進め方」 （92→91） | 生徒：2 生徒：8 保護者：7 教職員：7 | ○生徒の実態を把握しながら、授業において学ばせるべき事柄を伝えることができていると判断できる。一方で、本来生徒に求めたいレベルまでの内容を教えようとしたときに、生徒の理解が伴わないことがよく見受けられる。生徒に更なる知的好奇心を育ませることができるよう、各教科で一層の工夫をしていきたい。 |
| 知性や感性の醸成 | ○自主的な学習の機会の創出 | ○自主学習スペース「おくまな」 | | | ○おくまなについてはR4に行った大学生のオンライン指導などの利用者増対策を考える。 | |
| | ○「総合的な探究の時間」の充実 ○地域活動の充実 | ○「奥出雲学」 ・探究スキル学習 ・地域課題解決研究 ・ICTによる探究学習支援 ○ボランティア活動 | 「地域の魅力・課題の理解」 生徒（90→89） 「自発的な学習と協働」 生徒（94→96） 「主体的姿勢の育成」 教職員（96→86） | 生徒：5 生徒：6 教職員：9 | ○総探については調べ学習に終わらず生徒のアクションを促していきたい。 ○「奥出雲学」を軸として、「主体的姿勢の育成」のみならず「発表する力」や「聞く力」も高めていけるよう、各教科との連携をさらに密にしていきたい。 | ○寮の定員をオーバーして寮に入れないという噂が流れている。寮の定員の課題について、コンソーシアムでワーキンググループを立ち上げて検討していく必要がある。まずは役員で寮の見学会を計画し、実態を踏まえた上で検討していくべきである。 |
| | ○就職指導の充実 ・職業観の育成 ○進学指導の充実 | ○就職・進学の面接指導 ○放課後の進学補習 ○土曜講座 ○模擬試験の効果的利用 ○共通テスト研究 | 「進路指導の充実」 生徒（96→94） 保護者（97→96） 教職員（93→100） 「進路について考えたか」 生徒（94→93） （1年90→88、2年92→95、3年100→97） | 生徒：11 保護者：9 教職員：8 生徒：4 | ○概ね目標を達成と考える。生徒の進路について、全教員周知のもと指導を行う体制をつくる。模試成績報告・分析を行い、共通テスト・新課程入試対応策を各教科で検討する。課題研究が入試に活用できるよう指導していきたい。 | ○寮生が感染症に感染した際に、迎えに来られなかったり、看る人がいない場合など、町内の病院と連携を図ってほしい。 |
| 地域から信頼され期待される学校づくりのための情報発信・情報交換 | ○情報発信の迅速化 | ○HP等の充実 | 保護者（85→85） | 保護者：5 | ○引き続きHPやインスタグラム、広報奥出雲「よここうコーナー」の充実を図りたい。保護者あて文書のメール配信も継続していきたい。 | ○奥出雲町では「かけはしプログラム」を作り、小学校までの段階でどこまで育ててほしいか、小学校に入ったかどうかを今進めている。中高で途切れてしまっているのはよくないので、連携を強化して欲しい。 |
| | ○保護者や地域との連携の推進 | ○PTA活動 | 「保護者との連携」 保護者（86→88） | 保護者：6 | ○環境美化ボランティアへの参加やテイクアウト祭りなど、PTAの方々にご協力をいただいた。来年度もより多くの方に参加していただけるような活動を考えていきたい。 | |
| | ○中学生へのアピール | ○オープンハイスクール | | | ○部活動体験を再開したり、オープンハイスクールを2回実施するなど、中学生へのアピールになったと考える。 | |
| | ○迅速で丁寧な接遇 | ○来校者及び電話対応 | | | ○今後も全教職員で迅速且つ丁寧な接遇を心がけていきたい。 | |
| | ○「入学してよかった」という思いの涵養 | 全ての教育活動 | 生徒（92→92） 保護者（94→96） 教職員（100→100） | 生徒：12 保護者：11 教職員：11 | ○特に保護者で割合が上がったことは、横田高校の魅力がある程度伝わっているのではないかと考えられるが、引き続き魅力ある学校作りを推進していきたい。 | |

凡例 アンケートの評価 A:目標達成（肯定的割合90%以上） B:目標ほぼ達成（80%～89%） C:目標達成までもう一歩（70%～79%） D:目標達成に至らず（69%以下）